

科目名	復興支援プロジェクト			ナンバリング	REC162	授業形態	演習
対象学年	3年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員	菊池真弓				

授業の概要	本演習では、復興支援演習1及び2等において行ってきた取り組みをふまえて、それらをさらに具体的な復興支援を目指した取り組みへと発展させるために、グループディスカッションを行い、具体的な支援活動に関する考察を深めていくことを目的とする。グループメンバー個々の意見を活かしたプロジェクトを実行し、その結果について発表及びポスターセッションを行う。						
到達目標	1.復興支援に関連する様々な課題について、分析・整理することができる。 2.復興支援の具体的なプロジェクトの内容について、計画を策定できる。 3.復興支援のプロジェクトを実施し、その結果を発表することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	復興支援論、ボランティア論、復興支援演習1及び2を単位取得済みであることが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.復興支援に関し、自分なりの課題を設定することができる。 2.復興支援の具体的なプロジェクトの内容を計画策定できる。 3.自分が策定した復興支援プロジェクトを実施し、その内容について発表することができる。	1.復興支援に関し、先行研究や様々な情報を整理し、オリジナリティの高い課題を設定することができる。 2.復興支援に関するプロジェクトについて、これまでの行政機関や各種団体等が実施してきたプロジェクトの内容をふまえて、課題解決に向けた総合的なプロジェクトの計画を策定することができる。 3.綿密な計画に基づいた復興支援プロジェクトを実施するとともに、その効果や改善点を十分に考察した発表を行うことができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					50%
宿題・授業外レポート	○		○		○		30%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	1.課題の振り返りを行い、担当教員がコメントを行う。 2.ポスターセッションについて、全体で意見交換を行う。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	復興支援プロジェクトとは(ガイダンス)	復興支援演習1及び2で修得した内容をふまえ、本演習でプロジェクトとして実施する内容について説明する。	
	第2回	プロジェクトのテーマ検討	ガイダンスの内容をふまえて、復興支援プロジェクトとして実施するテーマを絞る。	
	第3回	課題整理①(プロジェクト対象の分析)	復興支援プロジェクトのテーマ設定、目的、問題意識について理解を深め、対象を分析し、個別のテーマ・問題意識等をまとめる。	
	第4回	課題整理②(プロジェクトに関する文献調査等)	全回の内容をふまえ、復興支援プロジェクトの調査地域の概況を整理し、レポートにまとめる。	
	第5回	課題整理③(プロジェクトに関わる現地予備調査～関連施設見学等)	グループのテーマに関する現地の関連施設の見学等を行い、予備調査を実施して、個別の先行研究のレポートを提出する。	
	第6回	課題整理④(プロジェクトに関わる課題整理・ゲストスピーカーの講話)	これまで検討してきたプロジェクトに関する様々な課題について、ゲストスピーカーの話を参考に、討議・整理する。	
	第7回	プロジェクト検討①(目標課題の明確化)	これまでの演習内容をふまえ、仮説の設定、質問文の作成をすることで、グループ別の問題意識に応じた仮説・質問文を作成し、プロジェクトの目的を明確化する。	
	第8回	プロジェクト検討②(目標を実現させるための計画づくり)	プロジェクト実施に向けた心構えを理解し、現地調査の準備及び聞き取り調査の質問文の見直しを行う。	
	第9回	プロジェクト実行①	プロジェクトを具体化するためのグループセッションを実施し、社会資源を理解した上で、諸資源の調整を考察する。	
	第10回	プロジェクト実行②	全回の内容をふまえ、プロジェクトの対象地域や対象者に向けて、現地でプロジェクトを実施し、レポートを作成する。	
	第11回	プロジェクト実行③	全回実施したプロジェクトの対象地域や対象者に向けて、プロジェクトを振り返り、課題を整理する。	
	第12回	報告会準備①	プロジェクトの実行をふまえ、その成果や改善点等を考察し、レポートを作成する。	
	第13回	報告会準備②	プロジェクトのグループ別のレポートを作成し、報告会開催に向けた準備を行う。	
	第14回	グループ報告会の実施	グループ別のプロジェクト実行に関する発表レジュメに基づいた報告を行う。	
	第15回	ポスターセッションの実施	プロジェクトの活動報告について、ポスターセッション報告会を実施し、プレゼンテーションを行う。	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方	基本的に授業計画に沿って、各回のテーマに基づいた演習を行う。適宜授業内レポートや宿題を課す。			
授業外学習の指示	配付資料等を参考に、演習内容を復習する。不明な点は、各種文献資料やインターネット等を検索、もしくは担当教員に質問すること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	教科書は使用しない。随時、プリント等を配布する。
参考書	授業の内容に応じて適宜指示する。
参考URLなど	復興庁ホームページ http://www.reconstruction.go.jp 福島県庁ホームページ http://pref.fukushima.lg.jp いわき市役所ホームページ http://www.city.iwaki.fukushima.jp
その他	

ルーブリック「復興支援プロジェクト」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	プロジェクトテーマ設定	様々な先行研究をふまえ、自分なりの課題が明確化されたテーマ設定になっている。	自分の興味に基づいたプロジェクトの課題設定ができています。	課題設定が絞り込まれていない状態で、テーマが不明確である。
2	プロジェクトの計画策定	テーマ設定に基づいたプロジェクト計画が、多角的に検討されており、オリジナリティも高い。	テーマ設定に基づいたプロジェクトの計画がなされている。	テーマ設定に基づいた具体的なプロジェクトの計画策定ができていない。
3	プロジェクトの実行	プロジェクトの計画に基づいた実施が、ほぼ達成できている。	プロジェクトの計画に基づいた実施が、7割以上実行できている。	プロジェクトの計画に基づいた実施が、3割程度(未滿)しか実行できていない。
4	プロジェクトの振り返り	実際のプロジェクト実施時の問題点を把握し、検討課題を明確化できている。	実際のプロジェクト実施後の検討課題を把握できている。	実際のプロジェクトの実施に関する問題点をほとんど把握できていない。
5	プロジェクトの発表	興味深い切り口で課題を指摘し、多角的な検討視点をふまえて結論に導いたものになっている。	自らの考えを述べているが、様々な見解をふまえていないか、あるいは結論がありふれたものになっている。	他者の意見ばかりで、自らの考えが述べられていない、あるいは検討したテーマや課題に沿っていない。
6	プロジェクトのポスターセッション	図表等を効果的に使ったポスターを作成し、的確な質疑応答を行っている。	自分なりの課題を明確にしたポスターを作成し、質疑応答にも答えている。	自分の意見がポスターに反映されていない等、内容が不十分。また、質疑応答にも適切に答えられていない。
7				